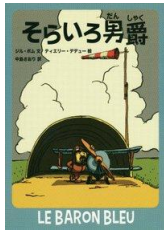


# School Library

北方中学校 図書館

平成28年5月号

G.W も終わりました。北方祭りなど、年に一度の楽しみもありました。楽しくリフレッシュできましたか？またいつもの日常が戻ってきました。ずっとお待たせしていた昼休みも、図書館を開館できるようになりました。4月の図書館オリエンテーション以来、本を借りていない人は、オリで借りた本の返却期限がきています。また次の本を借りに図書館に来てください。青空図書館でクジを引いた人、図書館で使えますよ。



『そらいろ男爵』 ジル・ボム／文

今年の図書館オリエンテーションで、読み聞かせをした本です。心を動かされる本に沢山出会えることを願って。

「本屋大賞」は、書店員自身が読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本に投票して決定した賞です。今年の本屋大賞の中で、北中図書館に所蔵している本を紹介します。



『羊と鋼の森』 宮下奈都／著

ピアノの音色から、懐かしい風景が見えた。ピアノなんて、今まで弾いたこともないし、興味もなかった。でもこの音は特別だ。

「才能があるから生きていくんじゃない。そんなもの、あったって、なくたって、生きていくんだ。あるのかないのかわからない、そんなものにふりまわされるのはごめんだ。もっと確かなものを、この手で探り当てていくしかない。」

ゆるされている。世界と調和している。それがどんなに素晴らしいことか。ピアノの調律に魅せられた一人の青年の物語。



『君の臍臓をたべたい』 住野よる／著

ある日、高校生の僕は病院で1冊の文庫本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それは、クラスメイトである山内桜良が密かに綴っていた日記帳だった。そこには、彼女の余命が臍臓の病気により、もういくばくもないと書かれていた。こうして、偶然にも【ただのクラスメイト】から【秘密を知るクラスメイト】となった僕。まるで自分とは正反対の彼女に、僕は徐々にひかれていった。だが、世界は病を患った彼女にさえ、平等に残酷な現実をつきつける。





『世界の果てのこどもたち』 中脇初枝／著

戦時中、お互いが何人なのかも知らなかった幼い3人は、あることをきっかけに友情で結ばれる。しかし終戦が訪れ、運命は3人を引きはなす。

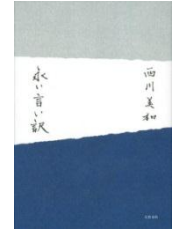
珠子は中国戦争孤児になり、美子は日本で差別を受け、茉莉は空襲で家族を失い、戦後の日本と中国で、3人は別々の人生を歩むことになった。あの戦争は、誰のためのものだったのだろうか。戦時中の満洲で出会った、3人の物語。



『永い言い訳』 西川美和／著

「愛するべき日々を愛することを怠ったことの、代償は小さくない」

長年連れ添った妻・夏子を突然のバス事故で失った、人気作家の津村啓。悲しさを“演じる”ことしかできなかった津村は、同じ事故で母親を失った一家と出会い、はじめて夏子と向き合い始めるが…。突然家族を失った者たちは、どのように人生を取り戻すのか。



『朝が来る』 辻村深月／著

親子3人で平和に暮らす栗原家に突然かかってきた、1本の電話。電話口の女の声は、「子どもを返してほしい」と告げた。子を産めなかった者、子を手放さなければならなかった者、両者の葛藤と人生を描いた社会派ミステリー。



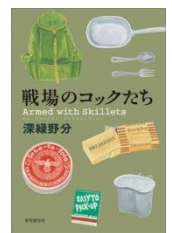
『王とサーカス』 米澤穂信／著

太刀洗万智は、取材のため向かったネパールで、穏やかな時間を過ごそうとしていた矢先、王宮で国王をはじめとする王族殺害事件が勃発。早速取材を開始したが、そんな彼女を嘲笑うかのように、彼女の前にはひとつの死体が転がり…。「この男は、わたしのために殺されたのか？ あるいは…。」疑問と苦悩の果てに、太刀洗が辿り着いた痛切な真実とは？2001年に実際に起きた王宮事件を取り込んで描いた壮大なフィクション。



『戦場のコックたち』 深緑野分／著

戦いの合間にも、慌ただしく調理に追われ、不思議な謎に頭を悩ます。そう、戦場でも事件は起きるし、解決する名探偵がいる。一晩で忽然と消えた600箱の粉末卵の謎、不要となったパラシュートをかき集める兵士の目的、聖夜の雪原をさまよう幽霊兵士の正体…。コック兵となった19歳のティムが、かけがえない仲間とともに過ごす、戦いと調理と謎解きの日々。



『火花』 又吉直樹／著

売れない芸人の徳永は、熱海の花火大会で、先輩芸人である神谷と電撃的に出会い、「弟子にして下さい」と申し出た。神谷は天才肌で、また人間味豊かな人物。弟子になる条件は「俺の伝記を書く」こと。神谷も徳永に心を開き、2人は頻繁に会って、神谷は徳永に笑いの哲学を伝授しようとする。吉祥寺の街を歩きまわる2人は、さまざまな人間と触れ合うのだが、やがて2人の歩む道は異なっていく…。



展示架に展示しました。昨年までの本屋大賞受賞作もあります。読んでみてください。